

# 歴

## 史資料館だより



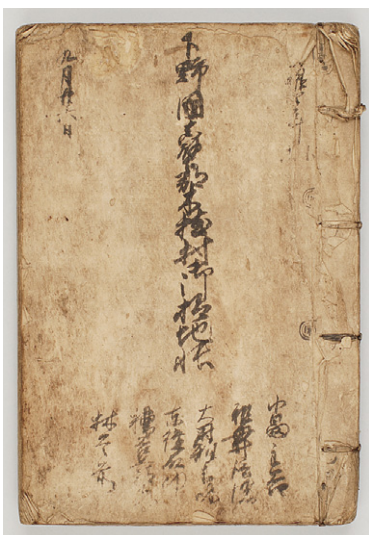
No.57  
教育委員会文化財課  
文化財グループ  
(☎ 58-5111・75-3111 代表)

### 市指定文化財に2点の新指定 『中原家文書』『浅野長勲夫妻石像』

今回は、8月21日付けで新たに市指定文化財に指定した2点の文化財について、ご紹介します。

1点目は、木植地区に居住していた武士であり、近世には名主を務めた中原家所蔵の『中原家文書』（古文書）です。これは中世と近世に書かれたものに分けられ、その中でも文禄4（1595）年の「木植村検地帳」は桜川市域で行われた太閤検地（豊臣秀吉が行った、田畑の測量および収穫量の調査）の検地帳としては確認できる唯一のものであり、資料的な価値が非常に高いものです。

2点目は、大正4（1915）年に制作が始まり、大正7（1918）年に竣工した『浅野長勲夫妻石像』（彫刻）です。



『中原家文書』の一部（木植村検地帳）

これは天目山から切り出された花崗岩で製作されました。浅野長勲とは、広島藩の最後の藩主で、維新後は侯爵として貴族院議員を務めた人物です。江戸時代の初期、祖先にあたる浅野長政が真壁を所有し、伝正寺を菩提寺として以来、浅野家は真壁と縁を持ち続けていました。やがて明治となり、真壁の振興のため大きな支援を行った浅野長勲

に対し、彼の徳を後世まで伝えようと夫妻の像が作られることになったのです。この石像は長勲が衣冠束帯、綱子婦人が十二単という正装姿で、非常に精巧な作りとなっています。また、工事の中心を担った石工、稲田亀吉は明治期に石燈籠など優れた作品を数多く残した人物で、のべ5,000人の石工を動員して、この石像を完成させました。石像が完成した大正7年は、筑波鉄道が



浅野長勲夫妻石像の除幕式（大正7年5月、前列中央が浅野長勲、後列右端が稲田亀吉）

真壁駅まで延伸し、石材輸送量が大幅に増加し始めた年でもあります。石像そのものの細工技術だけではなく、日本の近代化を支えた石材産業の発展という面から見ても、価値の高いものとなっています。この石像は、元は伝正寺境内にありましたが東日本大震災で被災。現在は別の場所に保管されていますが、今後、修理を予定しています。市の文化財として指定された2点は地域の歴史や文化を今に伝え、また当時の人々の生活背景などを映し出した、非常に貴重な資料です。

### 資格取得!

募集要項  
領布中

少子・高齢化が進化する現在、資格者として医療の分野で輝けるフィールドが大きく広がっています。当学院では、幅広い年齢層の生徒が共に学び、地域医療の最前線で活躍しています。社会人の方々も、数多くチャレンジしています。

真壁医師会准看護学院

筑西市二本成 827-1  
(下館南中学校そば)

☎0296-22-7702 <http://www.m-ishikai.com/gakuin/>



### 無料法律相談

予約制

※事業・法人は  
30分5400円(税込)

11月16・30日(日)  
12月14・28日(日)

安心できる県西出身の弁護士  
茨城県弁護士会所属 程塚 智則

場所: 学園都市法律事務所  
つくば市吾妻 3-10-13  
つくば文化ビル 3A

筑波メディカル  
センター近く



☎ 029-869-9500